

第22回 尾瀬国立公園協議会（2023(令和5)年度）

日 時：令和6年3月4日（月）

13:00～15:00

開催方法：ウェブ開催

次 第

議事

(1) 「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について

(2) 「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組

- ・ゼロカーボンパーク尾瀬かたしなエリアについて (片品村)
- ・持続可能な歩道のあり方検討について (環境省)
- ・尾瀬の「自然共生サイト」認定について (東京電力)
- ・尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策について (環境省)
- ・尾瀬国立公園利用アクションプランの策定について (環境省)
- ・沼尻公衆トイレの再開について (檜枝岐村)
- ・新たな沼山峠のあり方について (環境省)

(3) その他

【配布資料】

資料 1－1	「新・尾瀬ビジョン」整理表 2023（概要版）
1－2	「新・尾瀬ビジョン」整理表 2023
資料 2－1	ゼロカーボンパーク尾瀬かたしなエリアについて
2－2	持続可能な歩道のあり方検討について
2－3	尾瀬の「自然共生サイト」認定について
2－4	尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策について
2－5－1	尾瀬国立公園利用アクションプランの策定について
2－5－2	尾瀬国立公園利用アクションプラン（本体）
2－5－3	尾瀬国立公園利用アクションプラン関連の取組例
2－6	沼尻公衆トイレの再開について
2－7	新たな沼山峠のあり方について

参考資料 尾瀬国立公園協議会設置要綱（R5.1）

第22回尾瀬国立公園協議会 出欠表

※敬称略、順不同

	所 属	氏 名	出 欠	随行者
1	環境省関東地方環境事務所	所長	松本 啓朗	出席
2	林野庁関東森林管理局計画保全部	部長	諫訪 実	出席 関東森林管理局 計画課長 杉崎 浩史 自然再生指導官 黒沢 幸一 会津森林管理局南会津支署 支署長 橋本 俊夫 総括事務管理官 星野 要 総括森林整備官 櫻井 勝
3	福島県生活環境部	主幹兼副課長	小山 勉	出席
4	栃木県環境森林部	部長	小野寺 一行	欠席
5	群馬県環境森林部	部長	須田 恵里子	出席 自然環境課尾瀬保全推進室 企画推進係長 西嶋 弘満
6	新潟県環境局	局長	玉木 有紀子	欠席
7	檜枝岐村	村長	平野 信之	出席
8	南会津町	町長	渡部 正義	出席
9	日光市	観光経済部環境森林課 副主幹	笠本 友美	出席
10	片品村	村長	梅澤 志洋	出席 むらづくり観光課長 狩野 久良 同課主任 鎌木 陽介
11	魚沼市	生活環境課 主事	桜井 凜	出席
12	公益財団法人尾瀬保護財団	事務局長	臼田 栄慈	出席
13	三井物産株式会社サステナリビティ経営推進部 グローバル環境室	三井物産フォレスト株式会社 業務部戦略企画室長	鎌田 学	出席
14	東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部水利・尾瀬グループ	グループマネージャー	小島 俊	出席 専任課長 須永 勝博 経営企画ユニット ESG推進室 小暮 義隆
15	東京パワーテクノロジー株式会社	常務取締役	森尻 謙一	出席 尾瀬林業事業所長 平石 忠一 同所環境保全GM 高野 尚之
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会			欠席
17	南会津町觀光物産協会館岩支部			欠席
18	一般社団法人日光市觀光協会 湯西川・川俣・奥鬼怒支部			欠席
19	一般社団法人片品村觀光協会	事務局長	倉田 剛	出席
20	一般社団法人魚沼市觀光協会	事務局長	福井 隼次	出席
21	尾瀬山小屋組合 組合長		平石 忠一	出席
22	尾瀬山小屋組合 副組合長		平野 陽一	欠席
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会			欠席
24	公益財団法人日本野鳥の会 栃木県支部			欠席
25	片品山岳ガイド協会	会長	館山 美和	出席
26	新潟県自然観察指導員の会	顧問	加瀬 由紀子	出席
27	公益財団法人日本自然保護協会	参与	横山 隆一	出席 部長 大野 正人
28	尾瀬ガイド協会	会長	石塚 照久	出席 事務局 桂田直樹
29	福島大学	教授	長橋 良隆	出席
30	横浜国立大学大学院	名誉教授	加藤 峰夫	出席

関係者

1	東京大学大学院農学生命科学研究科	准教授	山本 清龍	出席	
---	------------------	-----	-------	----	--

事務局

	所属	氏名
1	関東地方環境事務所国立公園課	課長 植竹 朋子
2		自然保護官 黒田 浩太郎
3	関東地方環境事務所檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官 山崎 大輔
4	関東地方環境事務所片品自然保護官事務所	自然保護官 服部 優樹
5	株式会社ADDIX	取締役 加藤 寛之
6	株式会社ADDIX	執行役員 十河 日佳里
7	株式会社ADDIX プラットフォーム事業部	リーダー 田中 沙季
8	公益財団法人尾瀬保護財団	企画課長 登坂 英季
9		主任 宇野 翔太郎

**「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について
～「新・尾瀬ビジョン」整理表 2023（概要版）～**

※「★」は議事（2）「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組事例で報告

みんなの尾瀬 ～尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう～

視点① 愛される尾瀬づくり

■ 尾瀬のファンづくり

- ・ 環境省：尾瀬利用APに基づく取組として、新宿御苑でのイベント開催及び普及啓発冊子の制作

視点② モデルとなる尾瀬づくり

■ 先進的な取り組みの推進

- ・ 片品村など：尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会でエリア一帯の脱炭素化を推進（★）
- ・ 東京電力：所有する尾瀬の土地について、環境省「自然共生サイト」に認定（★）

視点④ 情報の効果的・効率的な発信

■ 認知度の向上／情報の提供

- ・ 尾瀬山小屋組合：観光庁事業の採択を受け、情報サイト及び普及啓発冊子を制作
- ・ 檜枝岐村：会津沼田街道特設ページの立ち上げ及びプロモーション動画の広告配信

みんなで守る ～かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう～

視点① 自然豊かな尾瀬づくり

■ 植生の荒廃対策

- ・ 尾瀬ガイド協会：環境省事業を活用し、関係者や一般登山者参加型の歩道整備事業を実施

■ 外来植物対策

- ・ 片品山岳ガイド協会：除去した外来植物を活用した草木染めイベントを関係者と連携して開催

視点③ 野生動物との軋轢の解消

■ ニホンジカによる被害の低減

- ・ 環境省など：「ニホンジカ対策方針」の見直し等、構成員と連携したシカ対策を推進（★）

■ ツキノワグマとの共存

- ・ 栃木県：小中学生を対象としたツキノワグマの生態普及啓発事業、宿泊施設への巡回指導等を実施

みんなで楽しむ ～自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたくなる尾瀬にしましょう～

視点② 幅広い楽しみ方の検討

■ 多様な利用方法の検討

- ・ 環境省など：保護と利用の好循環を生み出す取組を関係者が一丸となって推進する「尾瀬国立公園利用アクションプラン」を策定（★）
- ・ 魚沼市観光協会：檜枝岐村と連携した魅力発信、尾瀬ルート活用方法について意見交換を実施予定

■ 地域における利用の役割分担

- ・ 東京パワーテクノロジー（株）：鳩待山荘・鳩待峠休憩所のリニューアル計画を推進

視点③ 楽しむための土台づくり

■ 施設の整備

- ・ 檜枝岐村：沼尻公衆トイレの再開（★）
- ・ 環境省：新たな沼山峠のあり方について検討（★）
- ・ 環境省：持続可能な歩道のあり方について検討（★）

まとめ

- 利用者の受入れに欠かせない歩道やトイレ等利用施設は老朽化が進んでいるものも見られ、より持続可能なものとするためには、利用状況等を踏まえ、施設・機能の最適化や新たなリソース獲得を進めていく必要がある。また、シカによる被害やツキノワグマとの共存、外来植物の繁殖など、尾瀬本来の生態系の消失につながるリスクも見られることから、尾瀬を守る活動についても同様に積極的な取組推進が必要である。
- 一方、少子高齢化や人口減少等の社会・経済状況の変化により、国や自治体の財政状況が厳しくなっている中、「守る」・「楽しむ」それぞれの活動をいかに拡充させられるかが課題となっている。
- そんな中、持続可能な地球環境の実現に向けて、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブといった考え方方が社会・経済全体に浸透しつつあり、尾瀬国立公園においてもゼロカーボンパークや自然共生サイトの認定などの取組も進められている。また、利用者をビギナーからファン（尾瀬の守り手）へとステップアップを図る「尾瀬ファンベース戦略」を基本とした「尾瀬国立公園利用アクションプラン」を策定し、適正利用の促進が自然保護につながる好循環の仕組みづくりの実現に向けて、様々な取組が実行されているところ。
- 「新・尾瀬ビジョン」に掲げる「みんなに愛され続ける尾瀬」の実現に向けて、利用者も含め「みんな」の幅広いサポートを受けつつ、着実に成果を出していきたい。

新・尾瀬ビジョン整理表2023

みんなの尾瀬	国		県		市町村		財団		土地所有者		観光関係者						地元団体			NGO等		関連する会議等						
	1 環境省関東地方環境事務所	2 林野庁関東森林管理局	3 福島県	4 栃木県	5 群馬県	6 新潟県	7 檜枝岐村	8 南会津町	9 日光市	10 片品村	11 魚沼市	12 三井物産	13 東京P-T	14 尾瀬保護財団	15 東京P-T	16 南会津町観光物産協会館岩支部	17 日光市観光協会	18 片品村観光協会	19 魚沼市観光協会	20 尾瀬山小屋組合	21 福島県連絡協議会	22 日本野鳥の会栃木県支部	23 片品山岳ガイド協会	24 新潟県自然観察指導員の会	25 日本自然保護協会	26 尾瀬ガイド協会		
視点① 愛される尾瀬づくり																												
■尾瀬のファンづくり	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	※	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	◎	・尾瀬国立公園 標識ガイドライン ・尾瀬国立公園利用アクションプラン	・各市町村各観光協会の関連会議 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
■尾瀬で学ぶ機会の拡大	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	◎	・群馬県環境学習等推進行動計画 ・第2次南会津町環境基本計画・第二次魚沼市総合計画後期基本計画	・尾瀬環境学習推進協議会・ふくしま子ども自然環境学習推進協議会・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
視点② モデルとなる尾瀬づくり																												
■先進的な取り組みの推進	○			○					○			○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	※	・尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針 ・片品村ゼロカーボンパーク実行委員会・地球温暖化対策利根沼田地域協議会	・尾瀬国立公園シカ対策協議会・片品村ゼロカーボンパーク実行委員会・地球温暖化対策利根沼田地域協議会
視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり																												
■多様な主体の参加と連携促進	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	◎	・尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 ・尾瀬ガイド協会役員会理事会 ・片品村尾瀬交通対策連絡協議会	・尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 ・尾瀬ガイド協会役員会理事会 ・片品村尾瀬交通対策連絡協議会	
■担い手の育成	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	◎	・群馬県環境学習等推進行動計画・第2次南会津町環境基本計画	・魚沼から行く尾瀬」誘客推進協議会・ふくしま子ども自然環境学習推進協議会	
■資金的サポートの充実	※			◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	※	・第2次南会津町環境基本計画		
視点④ 情報の効果的・効率的な発信																												
■認知度の向上	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	◎	・尾瀬国立公園利用アクションプラン	・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
■情報の提供	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○			
視点⑤ 的確な分析																												
■基本情報の収集	◎			◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	※	・尾瀬国立公園利用アクションプラン	・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	

【みんな】

新・尾瀬ビジョン整理表2023

みんなで守る	国		県		市町村		財団		土地所有者		観光関係者						地元団体				NGO等		関連する計画等	関連する会議等				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
凡例																												
達成度(自己評価)																												
◎…取組が特に進捗している																												
○…取組を実施している																												
※…今後取組を予定している																												
空欄…該当する取組がない																												
—…未回答																												
赤字…前年度より評価が上がった																												
灰色塗り演し…前年度と評価が変わった																												
視点① 自然豊かな尾瀬づくり																												
■これまでの取組の継承																												
・これまでの取組の継続と改善	○		○		◎		○	○		○		○	○	◎	○	○		○	○	○	-	○		○	○	○	○	•第2次南会津環境基本計画
・尾瀬における自然保護の歴史の継承																												•群馬県尾瀬美化愛護協会・尾瀬国立公園田代山の保全と西根川流域の土砂等対策に関する検討会・群馬県尾瀬保護専門委員会・清掃協議会尾瀬支部
■貴重な自然環境の保護																												
・尾瀬の自然の特異性や価値への理解の促進	○	○		◎		○	○		○		○	○	◎	○	○			○	○	○	-	○		○	○	○	○	•第2次南会津環境基本計画
・人の活動が与える自然への負荷の最小限化																												•保護林(奥会津森林生態系保護地域)に設定
・乾燥化や樹林化から湿原生態系や景観を守るために検討																												
■植生の荒廃対策																												
・至仏山や会津駒ヶ岳を始めとする山岳地帯、尾瀬ヶ原や尾瀬周辺における荒廃対策の実施	◎	○	○	◎		○	○		○		○	○	◎	○	○			○	○	○	-	○		○	○	○	○	•第2次南会津環境基本計画
・ニッコウキスゲなど尾瀬を代表する植生の回復にむけた取組の実施																												•至仏山保全対策会議・群馬県至仏山東面登山道保全対策検討会・群馬県尾瀬保護専門委員会・鳥獣被害対策実施隊
■外来植物対策																												
・侵入状況の把握と効果的な防除方法の検討	◎		○		○	○	○	○		○		○	◎	○	○			○	-	○		○		○	○	○	○	•第2次南会津環境基本計画
・地域住民や企業と連携した防除活動の実施																												
視点② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり																												
■歴史・伝統・文化の保全																												
・歴史・伝統・文化に関する地域の宝の再認識、掘り起こし、活用	※				○		○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	-	○		○	○	○	○	•尾瀬国立公園利用アクションプラン
■新しい歴史・伝統・文化の創造																												
・それぞれの地域が持つ「強み」を活かした伝統・文化の深化、発信																												•品村文化財調査委員会・会津沼田街道利用促進協議会・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
視点③ 野生動物との軌跡の解消																												
■ニホンジカによる被害の低減																												
・科学的知見に基づく総合的なシカ管理方針の作成	◎	○	○	◎	◎	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○		○	○	○	○	•尾瀬・日光国立公園二木シカ対策方針・栃木県ニホンジカ管理計画・群馬県ニホンジカ適正管理計画、群馬県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画・第2次南会津環境基本計画・新潟県ニホンジカ管理計画
・優先して守りたいエリアマップの作成																												
・効果的な防除対策や捕獲手法の確立																												•尾瀬・日光国立公園二木シカ対策方針・尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会ミニーティング・南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会・栃木県野生鳥獣保護管理連絡会議・檜枝岐獵友会
・効果検証のためのモニタリング手法の確立																												
・広域連携による越冬地での捕獲の強化																												
・捕獲したニホンジカの有効活用																												
■ツキノワグマとの共存																												
・ツキノワグマの生態や対応方法についての利用者の普及啓発	○		○	◎		○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	-	○		○		○	○	○	○	•栃木県ツキノワグマ管理計画・新潟県ツキノワグマ管理計画・福島県ツキノワグマ対策連絡会議
・巡査やクマ籠の設置などの遭遇事故防止対策																												
■新たな獣害への対応																												
・研究者や獣友会からの動向の確認と関係者間の情報共有																												
視点④ 科学的知見に基づく保全																												
■調査研究の促進																												
・保全活動の計画や実施に必要な科学的知見の収集と活用	○		○	◎	◎	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	-	○		○		○	○	○	○	•群馬県尾瀬保護専門委員会
・研究者と公園管理者の情報共有や意見交換の推進																												
・継続可能な自然環境モニタリングシステムの構築																												

【守る】

新・尾瀬ビジョン整理表2023

みんなで楽しむ	国		県					市町村				財団		土地所有者		観光関係者						地元団体				NGO等		対応する会議体
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	
凡例																												
達成度(自己評価)																												
◎…取組が特に進歩している																												
○…取組を実施している																												
※…今後取組を予定している																												
空欄…該当する取組がない																												
…未回答																												
赤字…前年度より評価が上がった																												
灰色塗り潰し…前年度と評価が変わった																												
視点① 魅力あふれる尾瀬づくり																												
■尾瀬の魅力向上																												
・地域の宝について学び再発見する機会の拡大	○		○		◎		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	-	○		○	○	○	○	•群馬県環境学習等推進行動計画 ・会津沼田街道魅力向上推進プラン ・尾瀬国立公園利用アクションプラン
・新たな視点による地域の宝の発掘																												•尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
視点② 幅広い楽しみ方の検討																												
■多様な利用方法の検討	◎					○						○		○		○		○		○		○		○		○	○	•尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン
・新たな尾瀬の楽しみ方の検討や意見交換																												•尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
・地域特性に応じた残雪期や冬期利用のあり方の検討																												
■エコツーリズムの推進	◎																											
・質の高い認定ガイドなどエコツーリズムに関わる事業者の育成																												
・地域の宝を活かした尾瀬ならではの旅行商品や体験プログラムの作成	◎		○		◎		○	※		○	○	○			◎	○		○	○	○	-	○		○	○	•人材育成支援事業補助金やガイド支援事業補助金(檜枝岐村) ・第2次南会津町環境基本計画		
・認定ガイド利用を促進する仕組みの構築																												
・旅行エージェント等と連携したエコツーリズムの促進																												
■地域における利用の役割分担																												
・地域特性などに応じた、対象とする利用者層や利用スタイルの提案	○					○						○	○			○							○					
・利用者層や利用スタイルに応じた利用施設のあり方の検討																												
■滞在型・周遊型利用の促進	◎		○		○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	•尾瀬国立公園利用アクションプラン	
・尾瀬を楽しむモデルコースの提案																												•尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
・朝夕や星空など泊まらないと体験できない魅力の発信																												
・季節や場所ごとの魅力の発信による利用の分散化																												
視点③ 楽しむための土台づくり																												
■安全対策																												
・事故や遭難を防止するための危険箇所の整備や利用者への普及啓発	○		○		○	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○		○	-	○		○	○	•第2次南会津町環境基本計画 ・檜枝岐遭難対策救助隊 ・品川村遭難対策救助隊		
・事故や遭難情報の収集と共有																												
・救助体制の整備や今後のあり方の検討																												
■施設の整備	◎		○		○	○	○	○	○		○	○	○		◎	○	○		○	○	-	○		○	○	•尾瀬国立公園 標識ガイドライン		
・荒れた登山道や標識類などの整備																												
・長寿命化などトータルコスト低減の検討や実施																												
・道の駅など既存施設の情報発信拠点としての有効活用																												
■ルール・マナーの検討と普及啓発	◎		○		○		○		○		○	○	○		◎	○	○		○	○	-	○		○	○	•尾瀬国立公園協議会		
・携帯電話などの通信端末やドローン、冬期利用についてのルール・マナーの普及啓発																												
・尾瀬を楽しむ上でのルール・マナーの普及啓発																												
・入山口やインターネットネットなどを活用した入山前における普及啓発																												
■望ましい交通アクセスの検討	○																											•尾瀬国立公園協議会 ・適正利用の推進に関する小委員会 ・県道栗山館岩線整備推進規制同盟会・品川村尾瀬交通対策連絡協議会
・滞在型や周遊型利用の促進を意識したアクセスのあり方の検討																												
・利用者が少ない地域へのアクセスの向上																												
・尾瀬と他の地域を結ぶアクセスの運営強化																												
・分かりやすく利用しやすい案内や誘導																												

【楽しむ】

尾瀬かたしなゼロカーボンパークの取り組み

尾瀬かたしなは、2022年4月に環境省から全国で7番目、村としては日本初となるゼロカーボンバレーに登録されました。この登録により、尾瀬国立公園の脱炭素化を図ること、合わせて尾瀬国立公園の周辺施設・片品村全体への脱炭素化を図ることをめざします。決して容易な道のりではありませんが、2050年に向けて、排出する二酸化炭素ゼロの地域づくりを実現します。

先人から受け継いだ私たちの宝物を次世代へ

尾瀬ならではの
サステナブルな
観光と
脱炭素への挑戦

-

地域の暮らしや環境保全にも好影響となるような
尾瀬ならではの仕組みづくりに挑戦していきます!

// 尾瀬かたしなゼロカーボンパーク 6つのチャレンジ! //

アクションプラン(重点取組事項)の策定



尾瀬かたしな
ゼロカーボンパーク

片品村は、2050年までに二酸化炭素排出量
実質ゼロをめざします。

美しい尾瀬の自然を 未来へつないで行こう！



資料2-1

先人から受け継いた
私たちの宝物を
次の世代へ

尾瀬は度重なる開発の波にさらされながらも、懸命な保護活動によって貴重な自然を今につないできました。それが、日本の自然保護活動の原点である、尾瀬の魅力の一つです。私たちが受け継いだ自然を、より良い環境で次の世代へ引き渡すために、村民一人ひとりができることがあります。

おもに3つの現状と課題



『将来を考えた取り組みをスタート』

2022年2月に片品村は「片品村5つのゼロ宣言2050」を宣言しました



すべてのアクションプランを実現することで、
2050年に二酸化炭素排出量ゼロをめざします。

目標達成 2025年

片品村村内エネルギーの脱炭素化、エネルギーの地廃地消



「脱炭素化補助制度」を利用した太陽光発電や蓄電池などの効果を確認する

交通システムの脱炭素化



尾瀬国立公園内各駐車場マイカー規制による公共交通機関への移行率を高める

脱炭素に向けた教育実践とコミュニケーションの推進



尾瀬の価値と脱炭素に向けた動植物育成等の取り組みを行う

食品の地廃地消、物資の資源循環、観光の脱炭素化・サステナブルツーリズムの推進



ごみ「コスモ」を推進する(食べる生ごみの削減、室内でのないわづくを進める)

// 尾瀬かたしなゼロカーボンパーク アクションプラン全体のイメージ図 //



すべてのアクションプランを実現することで、
2050年に二酸化炭素排出量ゼロをめざします。

目標達成 2030年

片品村村内エネルギーの脱炭素化、エネルギーの地廃地消



公共施設の屋根に太陽光発電など再生可能エネルギーを導入する

交通システムの脱炭素化



公共交通機関の電気自動車化を進める(電気充電ハイブリッド車両の導入)

食品の地廃地消、物資の資源循環、観光の脱炭素化・サステナブルツーリズムの推進



民宿やホテルなどの宿泊施設、山小屋ごみ削減を進める

フィールドの脱炭素化・サステナブル化



尾瀬国立公園周辺の植樹や案内板を整備する(森林クリーンアップ等)、地域に適した地域資源を活用する

目標達成 2050年

片品村村内エネルギーの脱炭素化、エネルギーの地廃地消



分離型ごみリサイクル(ごみ箱、資源箱、資源袋、各家庭で保有する電気自動車など)、村内だけで再生可能エネルギーを販売する発電所を開発する

自立
できることから始めよう

連携
みんなが協力して実現する

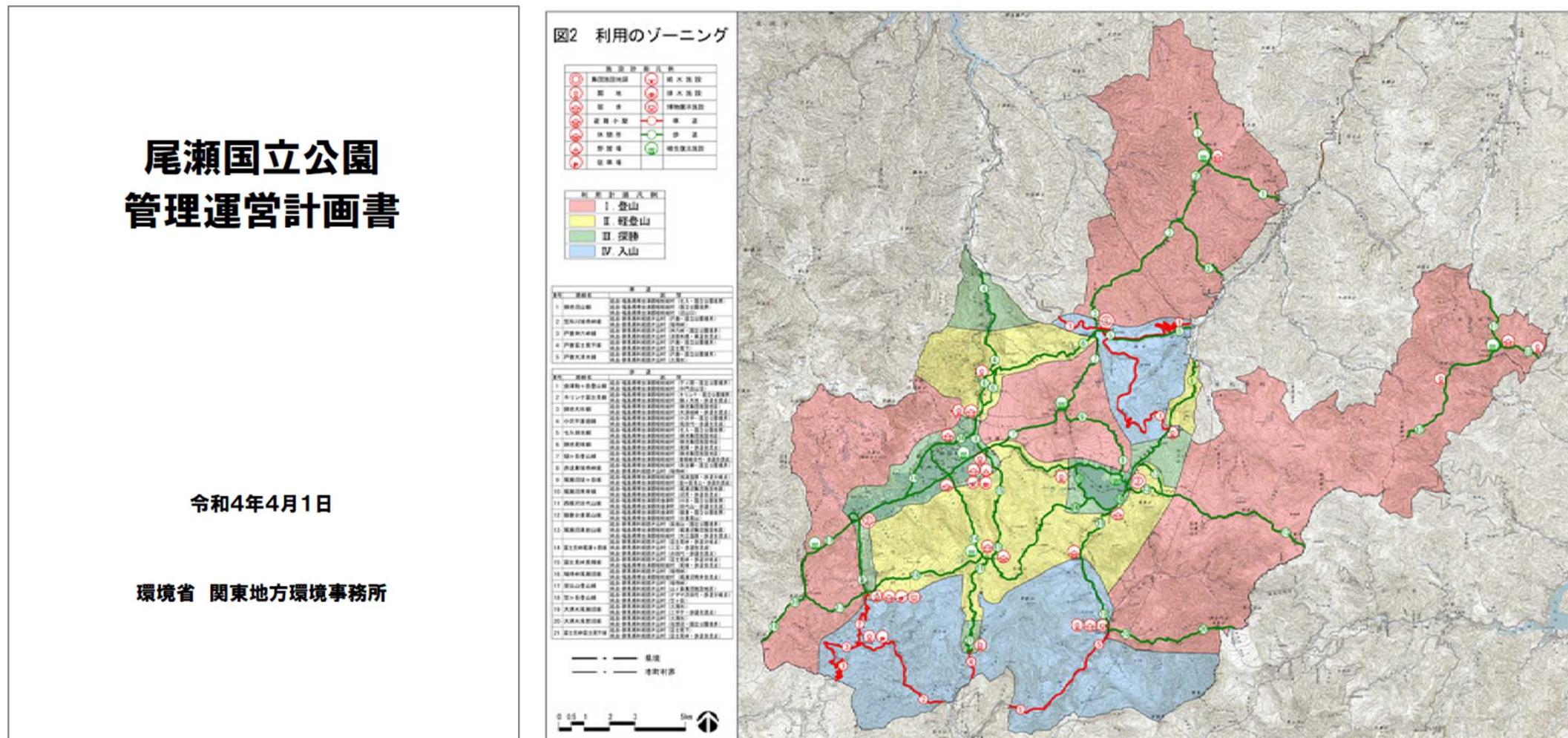
参画
村民が主体的に参画する

尾瀬国立公園における持続可能な歩道のあり方検討について

関東地方環境事務所 国立公園課

尾瀬国立公園の歩道管理

- 尾瀬国立公園管理運営計画「利用のゾーニング」に基づき、利用形態等に応じたエリア区分（登山・軽登山・探勝・入山の4エリア）を行い、さらに「エリアごとの利用方針」を設定。
- 多くの歩道が事業執行（環境省が認可）されており、事業執行者が管理運営計画に基づいて管理を実施。

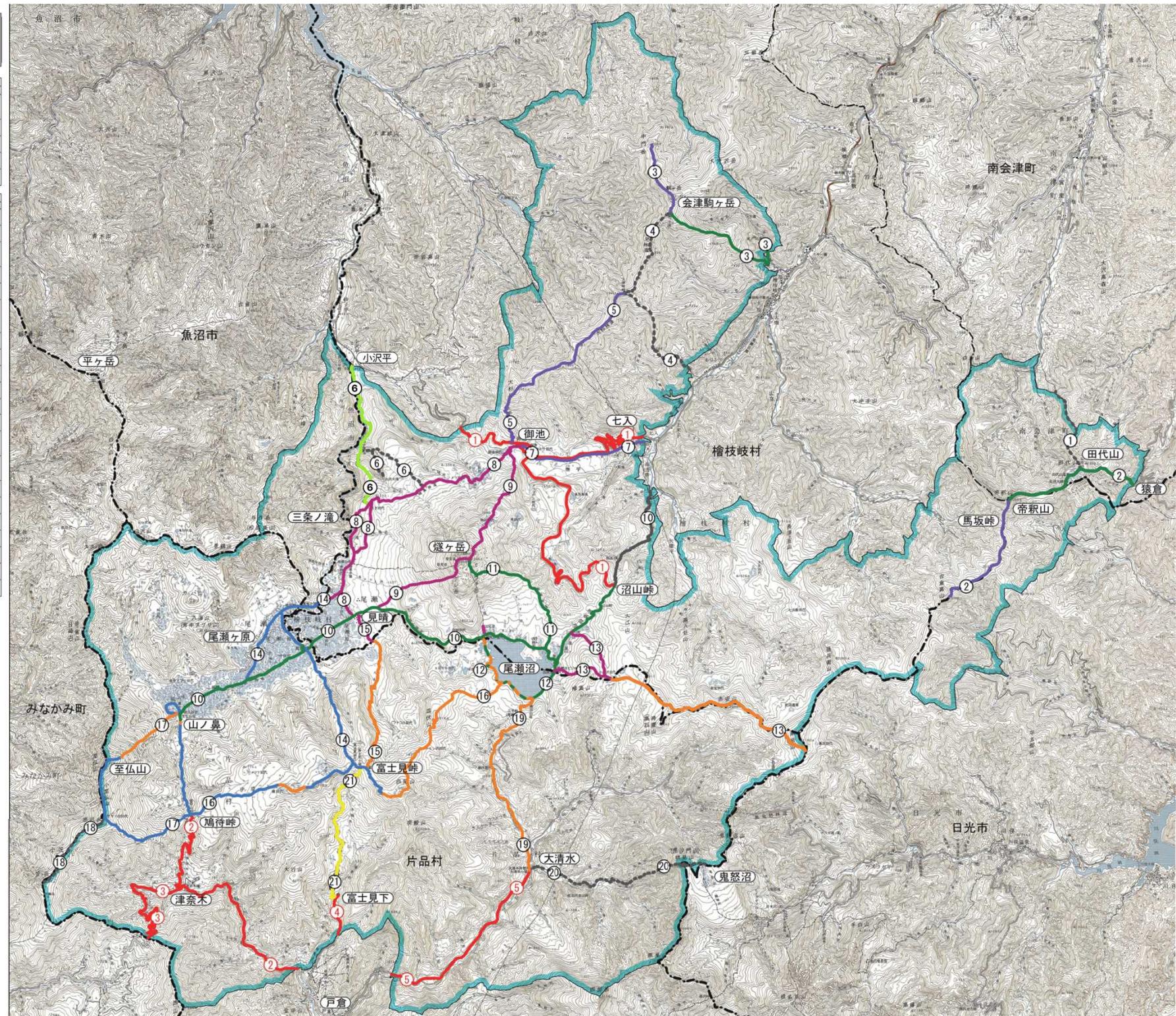


尾瀬歩道管理状況

番号	路線名	区間
1	御池沼山線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（七人・国立公園境界） 起点-福島県南会津郡檜枝岐村（国立公園境界） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（沼山）
2	笠科川端待峠線	起点-群馬県利根郡片品村（芦倉・国立公園境界） 終点-群馬県利根郡片品村（猪狩峠）
3	戸倉塙六峰線	起点-群馬県利根郡片品村（坤六峰・国立公園境界） 終点-群馬県利根郡片品村（余木木・車道合流点）
4	戸倉富士見下線	起点-群馬県利根郡片品村（富士見下・富士見合流点） 終点-群馬県利根郡片品村（芦倉）
5	戸倉大清水線	起点-群馬県利根郡片品村（大清水） 終点-群馬県利根郡片品村（大清水）

番号	路線名	区間
1	西根沢田代山線	起点-福島県南会津郡南会津町（川本・国立公園境界） 終点-福島県南会津郡南会津町（田代山・歩道合流点）
2	猿倉台倉山線	起点-福島県南会津郡南会津町（猿倉山） 終点-福島県南会津郡南会津町（中野山）
3	会津駒ヶ岳登山線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（下原・国立公園境界） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（中野山頂）
4	キリンテ富士見線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（キリンテ・国立公園境界） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池・大泡・歩道合流点）
5	御池大杉線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池集団施設地区） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（大杉峰・歩道合流点）
6	小沢平裏延線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（小沢平・国立公園境界） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（田代山・歩道合流点）
7	七入御池線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（七入・大泡・歩道合流点） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池）
8	御池見晴線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池集団施設地区） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（見晴・歩道合流点）
9	僅ヶ岳登山線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池集団施設地区） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池・歩道合流点）
10	赤法華鳴滝待峠線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（赤法華・歩道合流点） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（御池）
11	尾瀬沼縫ヶ岳線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（逢瀬沼縫・歩道分歧点） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（縫ヶ岳・御池・歩道合流点）
12	尾瀬沼南岸線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（尾瀬沼集団施設地区） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（沼山・歩道合流点）
13	尾瀬沼黒岩山線	起点-群馬県利根郡片品村（黒岩山・国立公園境界） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（尾瀬沼集団施設地区）
14	富士見峠尾瀬原線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（富士見峠・歩道合流点） 終点-群馬県利根郡片品村（赤田代・歩道合流点）
15	富士見峠見晴線	起点-群馬県利根郡片品村（富士見峠・歩道合流点） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（見晴・歩道合流点）
16	鳴滝待峠尾瀬沼線	起点-群馬県利根郡片品村（鳴滝待峠） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（尾瀬沼南岸合流点）
17	至仏山登山線	起点-群馬県利根郡片品村（山ノ鼻集団施設地区） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（大泡温泉・歩道合流点）
18	笠ヶ岳登山線	起点-群馬県利根郡片品村（オヤマ沢代・歩道分岐点） 終点-群馬県利根郡片品村（笠ヶ岳）
19	大清水尾瀬沼線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（大清水） 終点-福島県南会津郡檜枝岐村（沼山・歩道合流点）
20	大清水鬼怒沼線	起点-福島県南会津郡檜枝岐村（大清水） 終点-群馬県利根郡片品村（鬼怒沼・国立公園境界）
21	富士見峠富士見下線	起点-群馬県利根郡片品村（富士見下） 終点-群馬県利根郡片品村（富士見峠・歩道合流点）

- 県境
- 市町村界
- 尾瀬国立公園区域
- 環境省
- 福島県
- 檜枝岐村
- 群馬県
- 片品村
- 東京電力
- 事業決定なし
- 事業執行なし
- 車道
- 新潟県



尾瀬の木道

- 植生の保護、安全な利用環境確保の観点から、湿地、ぬかるみ箇所、山腹傾斜地を中心に設置。
- 一般利用者のかほか、学校教育、山小屋、尾瀬歩荷、施設管理者など様々な人が利用。
- 二本の複線木道は、尾瀬の景観を構成する重要な要素。



尾瀬国立公園における歩道施設の現状の課題

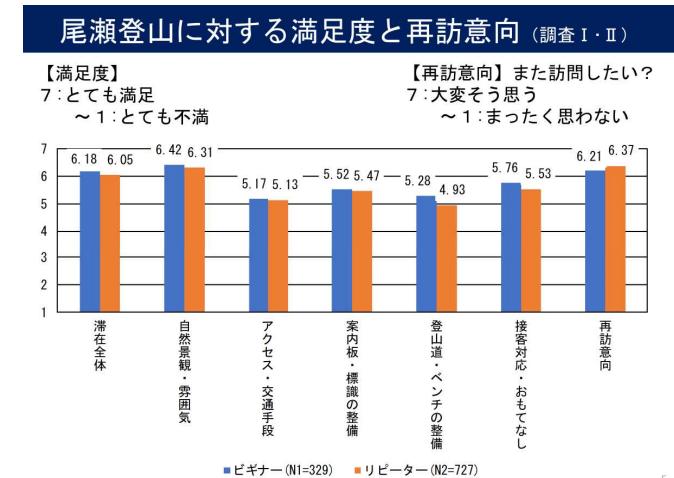
- 公園利用の要でもある歩道施設（特に木道・標識）等の更新・維持管理が困難になっており、一部では荒廃した施設が各地に残地され、公園利用上危険な状況が見られている。
- 利用状況調査（アンケート）における利用満足度についても、登山道に関する満足度が比較的低く評価されている他、歩道改善に関する意見が多数寄せられている。
- そうした中、尾瀬歩荷らによるクラウドファンディングや尾瀬ガイド協会が新たに登山道整備に取り組むなど、歩道施設の課題解決に向けた自発的な動きも見られている。
- また、2023年12月に開催された尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会において、利用者が保護活動に参加できる機会創出の必要性について議論してきたところ。



老朽化した木道



荒廃した道標は視認性が低下、道迷いの原因にも



2023年度利用者満足度調査結果 出典：環境省

現状の課題に対する対応策

- 歩道施設は事業執行者ごとに整備・維持管理されるが、公園全体として安全・快適な利用環境を維持することを目的として、以下2つの戦略で課題に対応。
- 最適化戦略では、必要に応じて歩道施設（特に木道・標識）等の最適化（不要施設の撤去、長寿命化等）を行い、幅広く歩道施設の望ましいあり方の検討を行う。
- 新たなリソース獲得戦略では、利用者負担の仕組み等の導入による財源確保などにより、地域一体となって歩道を維持できる体制を目指す。
- 利用施設の最適化×新たなリソース獲得の2軸で検討を進め、尾瀬国立公園の自然・利用環境を改善し、「新・尾瀬ビジョン」の実現に寄与する。

利用施設の最適化戦略



歩道施設について、整備の優先順位等検討に加え、不要施設の撤去や長寿命化等による整備コストの削減など、幅広く歩道施設の望ましいあり方の検討を行う。



尾瀬の自然環境及び利用実態を踏まえながら、必要に応じて**歩道施設（特に木道・標識）等の最適化**を行い、適切な利用環境の維持を目指す。

新たなリソース獲得戦略



歩道整備に必要な費用について、入域料、ふるさと納税、企業版ふるさと納税、クラウドファンディング等の活用を検討。また、近自然工法を用いた登山道整備の推進も行う。

新たな自然保護体験コンテンツ造成や入域料、寄付、民間企業との連携の検討等を行い、登山者等も参加できる課題解決の仕組み構築を目指す。

2024（令和6）年度の検討スキーム

尾瀬国立公園歩道のあり方検討会（事務局：環境省）

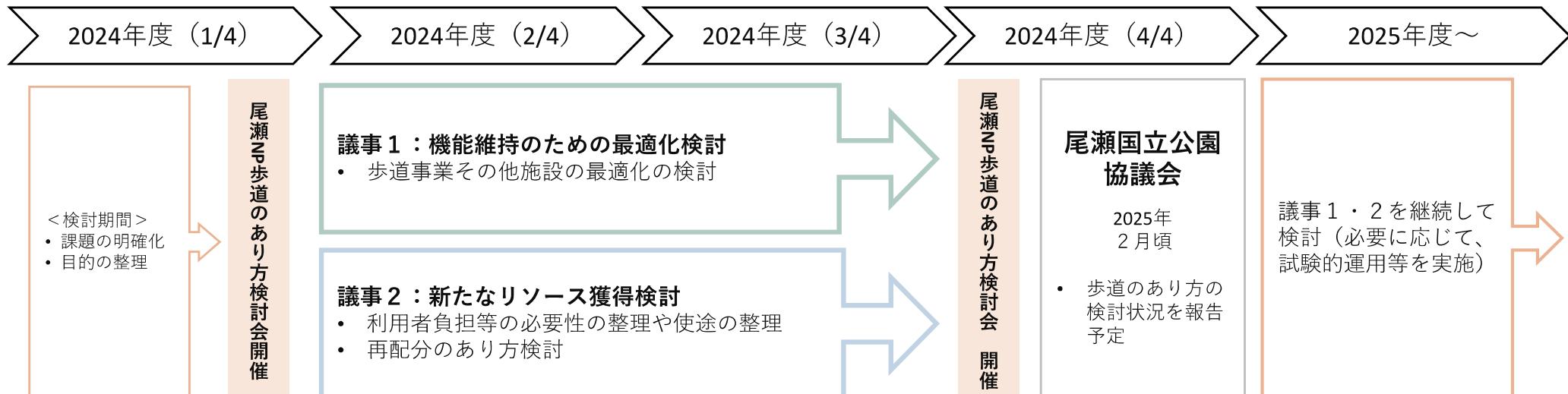
- 構成員：歩道事業執行者（群馬県、片品村、TPT、福島県、檜枝岐村、新潟県、環境省）、歩道所在自治体、土地所有者、尾瀬保護財団、環境省
- 有識者：検討中

議事1：機能維持のための最適化検討

- 検討事項：歩道維持のあり方を検討するにあたって、課題の精査・明確化を実施
公園計画及び管理運営計画の改正を見据え、歩道事業の最適化を検討

議事2：新たなリソース獲得検討

- 検討事項：利用者負担等のリソース獲得に向けた使途整理、再配分のあり方など



(参考) 尾瀬の歩道整備・維持に関する取組例

歩荷らによるクラウドファンディング

歩荷らが中心となってクラウドファンディングを実施し、約2100万円の収集に成功。手数料等を引いた1150万円を群馬県へ寄付し、群馬県歩道（三平峠周辺）の整備に活用予定。



売上一部還元による歩道整備

尾瀬関連商品の売上の一
部が、尾瀬の登山道整備等に充て
られる循環型商品も存在。



会津駒ヶ岳の歩道整備

檜枝岐村が、ふるさと納税、企業版ふるさと納税、クラウドファンディング等を活用し、歩道整備を実施

The screenshot shows a crowdfunding project page. At the top, there's a banner with the text "第5弾！ 会津駒ヶ岳のハイカーと湿原を守るために、安全な「木道」を取り戻したい！". Below it, a yellow button says "寄付金額" (Contribution Amount) and "達成!" (Achieved!). The main image is a photograph of a winding wooden boardwalk path through a wetland area. To the right, a large orange box displays the total amount "1,485,000円" and a progress bar showing "148.5%" with the target amount "目標金額: 1,000,000円". Below the progress bar, there are three metrics: "達成率 148.5%", "支援人数 87人", and "終了まで受付終了". A location pin indicates the project is in "福島県猪苗代町 (ふくしまけん ひのまたむら)". At the bottom, there are buttons for "ポスト" (Post), "いいね！" (Like), and "シェアする" (Share). A message box at the bottom right says "このプロジェクトは終了しました" (The project has ended).

尾瀬ガイド協会による登山道整備

尾瀬認定ガイド制度を運用している本会が、登山道整備のための新組織を設立（予定）。木道以外の新たな整備方法（近自然工法など）により、利用者も巻き込んで登山道整備と周辺植生の回復に取り組む（環境省のGW事業等も活用）。



尾瀬の「自然共生サイト」認定について
～生物多様性保全の実現に向けて～

2023年10月6日
東京電力ホールディングス株式会社
東京電力リニューアブルパワー株式会社

東京電力ホールディングス株式会社は、東京電力リニューアブルパワー株式会社が保有する尾瀬（尾瀬ヶ原、尾瀬沼、尾瀬戸倉山林）について、本日、環境大臣より「自然共生サイト」の認定を受けました。

「自然共生サイト」は、「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」として環境省が認定する区域になります。30 by 30（2030年までに日本の国土〔陸域・海域〕の30%以上を官民一体で保全）を達成するため、2023年4月より「自然共生サイト」の認定制度が開始されました。

尾瀬は本州最大の高層湿原であり、多様な生物種が生息しています。

東京電力グループは、尾瀬ヶ原の木道整備、日本ではじめて実施されたごみの持ち帰り運動、山小屋や公衆トイレの浄化槽設置、尾瀬戸倉の計画的な森林管理など、尾瀬における自然保護活動を約60年に亘り取り組んでおり、生物多様性保全に向けたこれらの取り組みが評価されたものと考えております。

また、尾瀬国立公園「尾瀬かたしなエリアゼロカーボンパーク※」の登録を契機に、国立公園をカーボンニュートラルのショーケースとし、訪れる国内外の人たちに脱炭素型の持続可能なライフスタイルを体験して頂く場作りを目指すべく、片品村と環境省と協働検討を進めております。その一環として、尾瀬国立公園のサステナブルツーリズムの提供なども行っております。

東京電力グループは、2022年10月に30 by 30を目指す行政、企業、NPOなどの有志連合「生物多様性のための30 by 30アライアンス」へ参画しており、引き続き、生物多様性保全の実現に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。



<東電小屋と尾瀬の木道>



<尾瀬サステナブルツーリズム>

※ゼロカーボンパーク：

環境省が国立公園において先行して脱炭素化に取り組むエリアを「ゼロカーボンパーク」として認定

以上

【本件に関するお問い合わせ】

東京電力ホールディングス株式会社

広報室 経営報道グループ 03-6373-1111（代表）

場所・面積

群馬県利根郡片品村、16,334ha

管理目的

- 【主目的】・東京電力リニューアブルパワー(株)の水力発電所の水源涵養のための土地及び森林・湿原等の保全管理
【副目的】・日本を代表する貴重な自然環境について土地所有者として保護管理し地域及び我が国へ貢献
・地元関係者と協働で自然保護活動を推進し、良好なパートナーシップを構築

サイト概要

- 尾瀬国立公園は、群馬・福島・新潟・栃木の4県にまたがり、このうち当社は群馬県側を所有（国立公園全体の約4割、特別保護地区の約7割）
- 唱歌「夏の思い出」でも唄われるよう豊かな自然に包まれた国内最大級の山岳湿地である「尾瀬ヶ原」をベースに、多くのハイカーに親しまれている。
- 「尾瀬ヶ原」には貴重な高層湿原が広がり、尾瀬特有の動植物の宝庫となっている。



土地利用の変遷

過去に幾度も開発の危機に直面し、そのたびに多くの人々の努力によって自然が保たれ、「ゴミ持ち帰り運動発祥の地」として我が国における自然保護の聖地とも呼ばれている。

サイト周辺の環境

関東地方太平洋側の最北部で最も奥山地に立地し、日本海側との分岐・分水嶺を包含する。

アピールポイント

- 東京電力リニューアブルパワー(株)は、土地所有者として、およそ60年にわたり、湿原保護の木道整備、荒廃湿原の回復、山小屋や公衆トイレの浄化槽設置、自然観察ガイドといった様々な自然保護活動を地域の方々とともに実施している。
- とくに、「木道」は全体約65km(環境省や各県含む)のうち「約20km」を設置し、毎年、老朽化した箇所を計画的にリプレースしている。
- 湿原を取り囲む尾瀬戸倉山林では、計画的な森林管理とともに間伐材の木道への活用と廃木道の紙資源化も進め、FSC森林認証を取得。
- 近年では、SDGsのニーズが高まっていることから、尾瀬の豊かな自然環境と周辺地域社会をフィールドとし、STEAM要素も取り入れた体験学習・課題解決型の環境学習プログラムを試行し今後本格展開を目指している。
- また、自治体カーボンニュートラル活動の一環である、地元片品村ゼロカーボンパーク計画のメニューとして、設備の電化・再エネ活用や自然観察プログラム等で協働していく。

生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

環境省 「重要湿地」 No.148 尾瀬ヶ原および尾瀬沼
(高層湿原、淡水湖沼)

【選定理由や内容】(以下、上記サイトより記載)

湿原植生、昆虫類において下記基準を満たしている

- ・基準1：湿原等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している
- ・基準2：希少種、固有種等が生育・生息地としている場合
- ・基準3：多様な生物相を有している場合(ただし、外来種を除く)



写真の撮影年月：2019.8.5
写真の説明：尾瀬ヶ原



写真の撮影年月：2019.8.3(左)、2022.7.8(右)
写真の説明：サジバモウセンゴケ(左)、ハッショウトンボ(右)

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】 提供している「生態系サービス」

●供給サービス

- ・水：地域に立地する当社水力発電所の水源涵養
- ・木材：尾瀬戸倉山林(自社所有)管理にて発生した間伐材の(湿原保護用)木道材へ活用 (FSC森林認証により木道にマーク付)
- ・紙材：木道廃材(10年程度で劣化しリプロセス)を回収しパルプ化し「尾瀬の木道ペーパー」とし製品化

●調整サービス（以下、全て試算値）

- ・脱炭素（炭素吸収固定）：尾瀬戸倉山林 約7.4千t-CO₂/年、湿原 約1千t-CO₂/年
- ・地下水涵養：約1億2千万m³/年、土壤流出防止機能：約1/144に抑制(植生なしの場合と比較した土壤流出量)

●文化的サービス

- ・尾瀬自然観察ガイド・SDGs探究型スタディーツアーによる学校教育への貢献及び尾瀬自然保護への理解推進等
- ・保健レクリエーション機能：尾瀬ヶ原散策によるセラピー効果、リラックス効果、観光・アミューズメント

【主な植生】

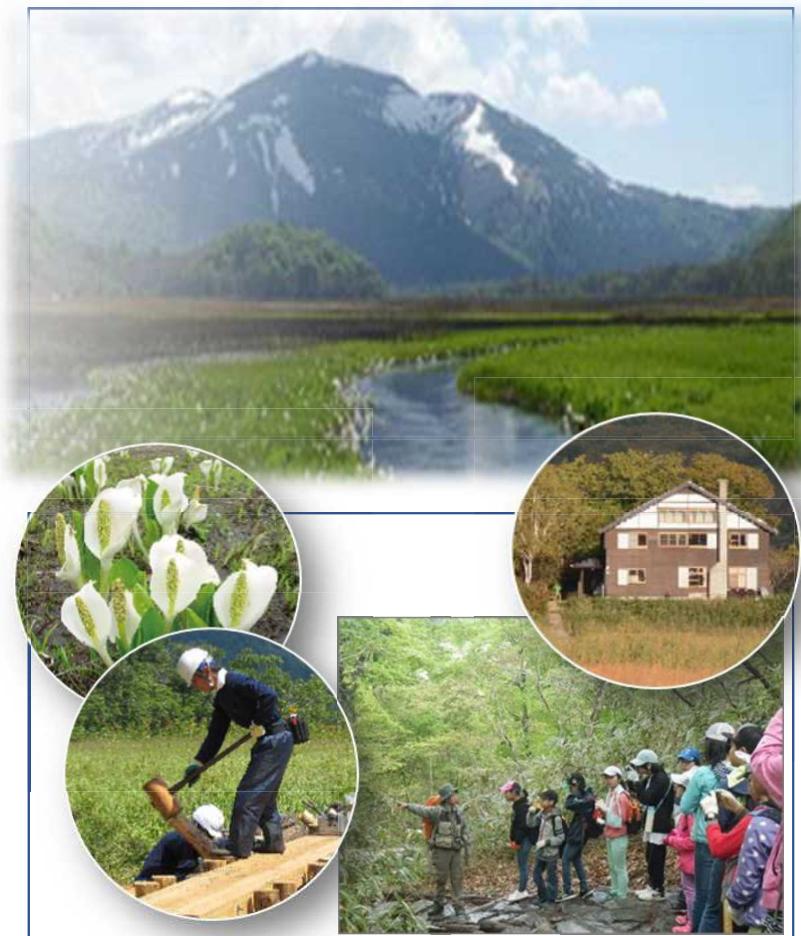
- ・湿原：ヌガヤ-イハミズゴケ群集、ミヤイリハビカ-キタミズゴケ群集、リュウキンカ-ミズバショウ群集、ホリバタミクリ-ゼンコウ群集、セキヨウモ-スギモ群集など

※価値(1)参照(環境省「重要湿地」No.148 尾瀬ヶ原および尾瀬沼 サイトより)

- ・山林：自然林(ブナ、ミズナラ、オオシラビソ等)、人工林(カラマツ、スギ等)

【確認された主な動植物】

- ・植物：リュウキンカCaltha palustris ニッコウキスゲHemerocallis middendorffii var.esculenta ワタスゲEriophorum vaginatum 他
- ・動物：オジヨMustela ermine Linnaeus (成体) アカルイモリCynops pyrrhogaster(幼体、成体) ハツヨウトボNannophya pygmaea (成虫)他



写真の撮影年月：2018.6

写真の説明：尾瀬の主な生態系サービスのファクター 3

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼の南側に位置する「尾瀬戸倉山林」。尾瀬国立公園の特別地域に指定され、また、利根川水系片品川の最上部にあたり、首都圏の大切な水源の森であるとともに、尾瀬の自然を守るバッファーゾーン（緩衝地帯）として重要

【主な植生】

自然林（ブナ、ミズナラ、オオシラビソ等）、人工林（カラマツ、スギ等）

【隣接・接続する保護地域等】

「尾瀬戸倉山林」は、尾瀬国立公園の尾瀬ヶ原を含む特別保護地区（特別天然記念物）の南側に隣接する第1種・第2種・第3種特別地域に分布

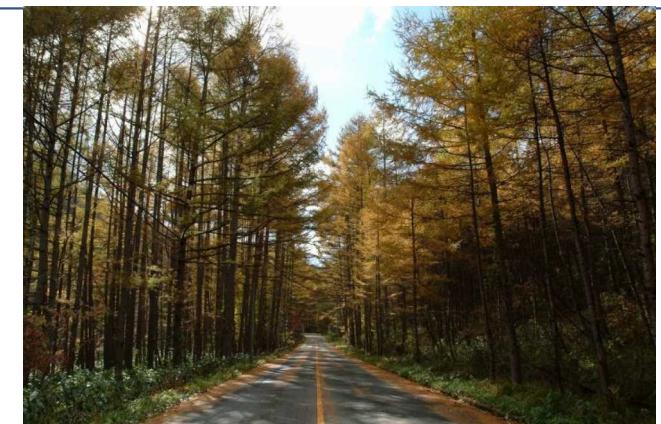
【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

尾瀬国立公園の特別保護地区（特別天然記念物）の緩衝機能を果たしている



写真の撮影年月：2012.7.30

写真の説明：カラマツ林



写真の撮影年月：2012.10.30

写真の説明：カラマツ林の紅葉

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬土地等管理業務：毎年次継続で所有土地・設備における現況確認(危険箇所、崩壊損傷箇所等の現地確認)及び必要な対策 ・尾瀬木道設置計画：毎年次継続で所有土地内木道について、現地確認により劣化損傷箇所を優先ランク分類整理し、架け替え工事に反映 ・尾瀬戸倉山林施業計画（片品村経由で群馬県へ提出） 施業計画(毎5ヶ年で更新)にもとづき毎年次継続で順次林班を変えて間伐等管理 	<p>【モニタリング対象】 尾瀬戸倉山林</p> <p>【モニタリング場所】 森林タイプ別に複数個所の調査 コドラー設置</p> <p>【モニタリング手法】 現地調査、資料調査、関係者ヒア</p> <p>【実施時期及び頻度】 毎年夏季各1回(2-3日)程度</p> <p>【実施体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FSC森林認証制度に伴う現地監査 ・フォレストック認定に伴う現地監査 <p>※いずれも、下記の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京電力リニューアブルパワー(株) 委託 ・東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所 対応 ・監査員(FSCまたはフォレストックより委任)



「自然共生サイト」の概要

令和5年9月

環境省自然環境局
自然環境計画課



- 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を保護地域内外問わず 「**自然共生サイト**」に認定。
- 「自然共生サイト」に認定された区域のうち、保護地域との重複を除いた区域を「**OECM**」として登録。

自然共生サイト

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
(申請主体：企業、団体・個人、自治体)

申請

自然共生サイト
認定

審査 (認定主体：環境省)

「自然共生サイト」のうち、保護地域との重複を除外した区域

OECMとして国際データベースに登録

「自然共生サイト」の認定基準



1. 境界・名称に関する基準
2. ガバナンスに関する基準
3. 生物多様性の価値に関する基準
4. 活動による保全効果に関する基準

「生物多様性の価値に関する基準」の具体的内容

以下のいずれかの価値を有すること	
場	(1) 公的機関等に 生物多様性保全上の重要性が既に認められている 場
	(2) 原生的 な自然生態系が存する場
	(3) 里地里山といった 二次的 な自然環境に特徴的な生態系が存する場
	(4) 生態系サービス を提供する場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場
	(5) 伝統工芸や伝統行事といった 地域の伝統文化 のために活用されている自然資源の場
種	(6) 希少な動植物種 が生息生育している場又は生息生育している可能性が高い場
	(7) 分布が限定 されている、 特異な環境 へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場
機能	(8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、 動物の生活史 にとって重要な場
	(9) 既存の保護地域又は認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、 緩衝機能や連結性 を高める機能を有する場

尾瀬・日光国立公園 ニホンジカ対策について

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（2020年1月）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
目標終	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持
(事業目標) 5年目途	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に ▶ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 湿原植生への影響を低減するため、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減 ▶ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置

実施方針	捕 獲	
	植生保護	モニタリング
	<p>(1) 共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守 <p>(2) 奥日光・足尾周辺地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲 ・足尾地域高標高域での捕獲検討 ・捕獲適地や適期の検討のための情報収集 	<p>(3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中通過地域での効率的・効果的な捕獲 ・関係機関で連携した効率的・効果的な捕獲 ・定住型個体の通年捕獲(有害・管理捕獲) <p>(4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春から晩秋にかけた移動型個体の捕獲 <p>(5) 会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山周辺地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生息状況調査の結果に基づき捕獲 ・捕獲を効果的に実行するための体制整備

モニタリングの実施状況 (尾瀬国立公園の植生被害状況)

尾瀬国立公園の植生被害状況

(採食状況調査の結果)

- 採食状況調査の結果、採食度は湿原や林縁は減少傾向、高山や森林は増加傾向にある。※
 - 湿原や林縁は植生保護柵や捕獲対策の成果もあるが、採食植物の減少も反映されている。
 - 2023（令和5）年度採食が確認された種は292種。新たにトウヤクリンドウやハクサンコザクラなどが食害にあった。
- ※調査方法から被害の減少は回復ではなくピークアウトも反映している性質がある。経年の被害の動向から今後の拡大が危惧される場所を反映している。

■湿原及び林縁・森林における被害の変化



■採食状況調査

調査ルート上において、

- 採食された種の記録
(種名、被害部位、位置)
- 採食度の記録 ①+②

- ① [P : 群生して生育
S : 単生または疎らに生育
② 採食量 : 5段階評価

例) P 1 (群生で少し採食)
S 3 (単生で半分採食)

■採食度に対する配点

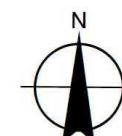
採食量	P(群生)	S(単生)
1	1点	1点
2	2点	1点
3	4点	1点
4	7点	1点
5	10点	1点



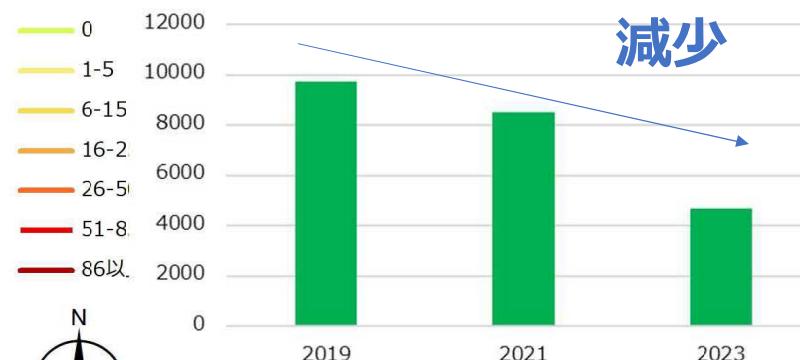
凡例

採食度

- 0
- 1-5
- 6-15
- 16-2
- 26-5
- 51-8
- 86以



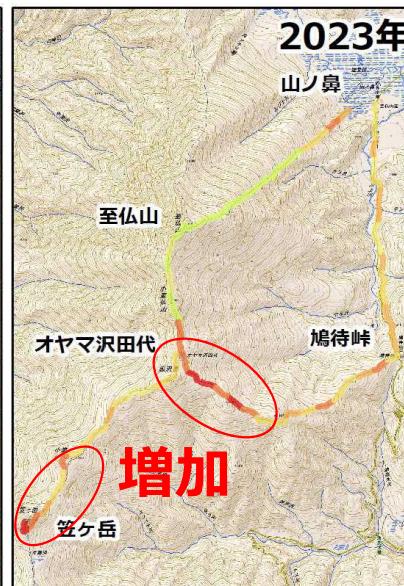
採食度の経年変化(湿原・林縁)



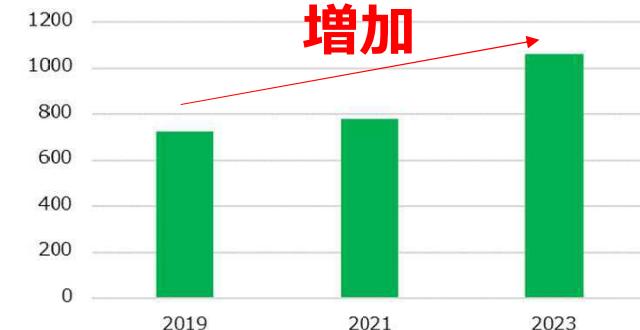
尾瀬国立公園の植生被害状況 (採食状況調査の結果)

■高山・森林における被害の変化

○至仏山・笠ヶ岳



採食度の経年変化(至仏山・笠ヶ岳)



○燧ヶ岳



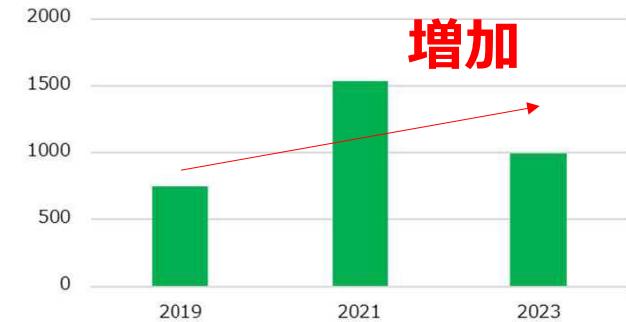
凡例

採食度

- 0
- 1-5
- 6-15
- 16-25
- 26-50
- 51-85
- 86以上



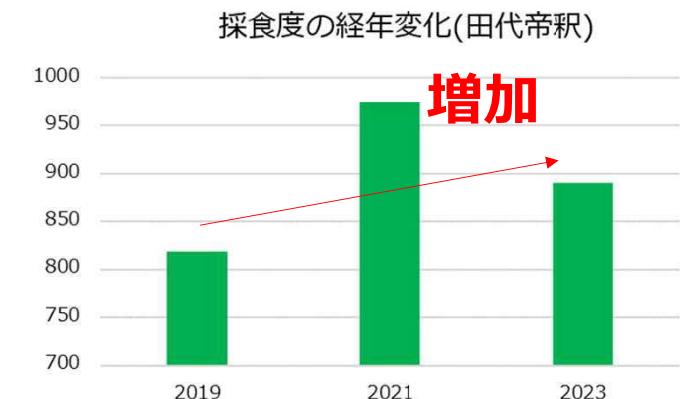
採食度の経年変化(燧ヶ岳)



尾瀬国立公園の植生被害状況 (採食状況調査の結果)

■高山・森林における被害の変化

○田代山・帝釈山

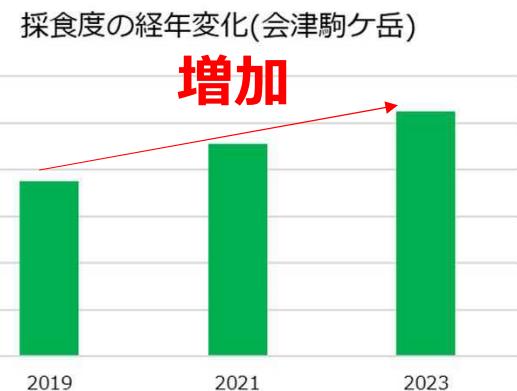
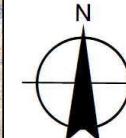


○会津駒ヶ岳



凡例

採食度	
0	0
1-5	1200
6-15	1000
16-25	800
26-50	600
51-85	400
86以上	200



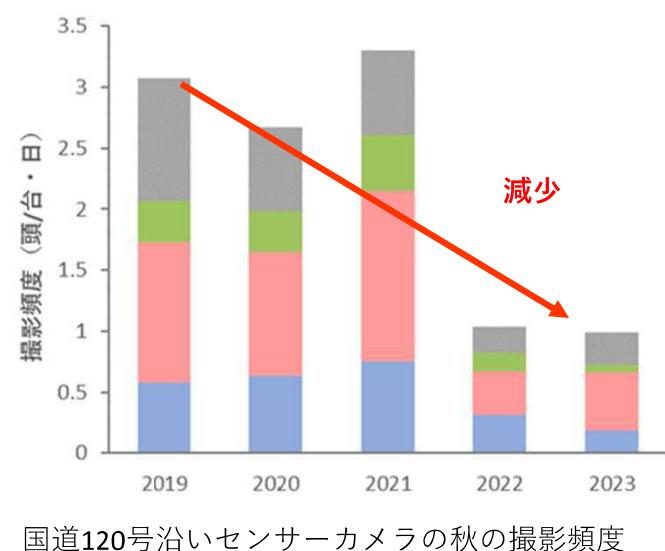
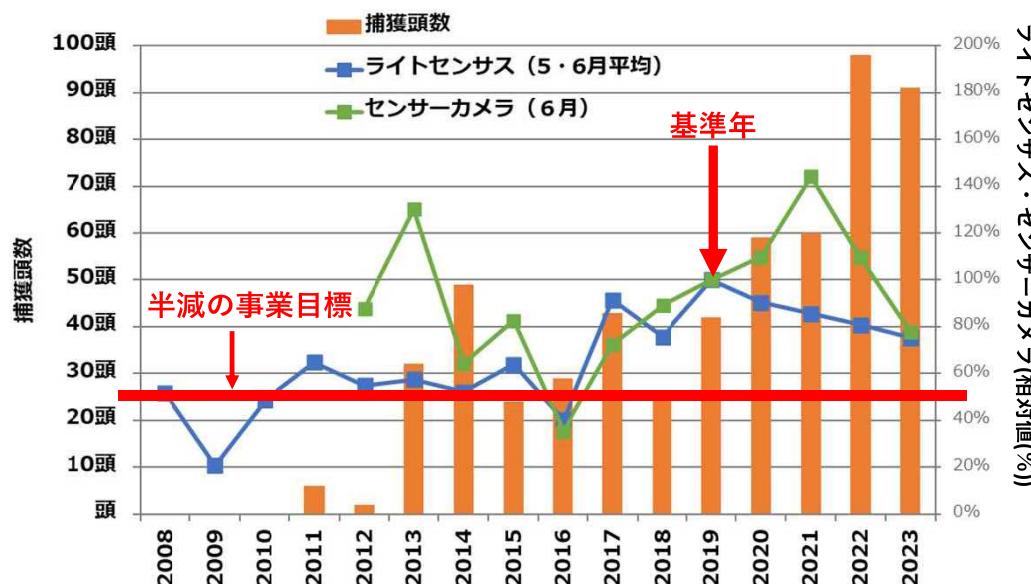
対策の実施状況 (捕獲・植生保護柵)

尾瀬国立公園周辺のニホンジカの捕獲状況

- 関係機関が連携して、尾瀬国立公園及び周辺におけるシカの捕獲強化を進めている。
- **捕獲数は増加傾向**であるが、「湿原に出没するシカの概ね半減」の達成には、**更なる捕獲の強化が必要**。
- 田代山周辺の捕獲も強化され、田代山・帝釽山周辺で福島県がGPS首輪を装着し越冬地の解明も始まった。

実施主体	主な捕獲場所	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境省（指定管理事業）	核心地域：尾瀬ヶ原、尾瀬沼、大江湿原周辺	59	90	87	124	130
群馬県（指定管理事業）	集中通過地域：国道401号・120号	237	206	258	223	228 (11月末時点)
福島県（指定管理事業）	生息拡大地域：南会津地方	136	108	168	140	151 (1月末時点)
合計		432	390	513	487	509

尾瀬ヶ原におけるシカ捕獲数とシカの生息モニタリング結果（基準年相対比）



尾瀬国立公園の防護柵の設置状況

- 関係機関が連携して、優先防護エリアA・Bランクを中心に防護柵の設置を進めている。
- 2023年度中に笠ヶ岳（Aランク）と燧ヶ岳（Bランク）の設置が完了し **優先防護エリアA・Bランク
11か所のうち9か所に設置が完了（残り2か所は泉水田代と見晴のみ）。**
- 2025年（目標年）までに、A・Bランクの全てに植生保護柵の設置完了を目指す。

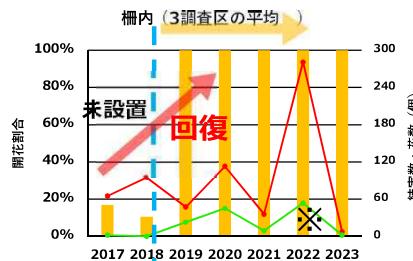


尾瀬国立公園の植生保護柵の効果 (尾瀬ヶ原；ヨッピ川南岸と竜宮)

- ヨッピ川南岸においては、植生保護柵の効果が十分に発揮されている。
- シカの侵入が確認されている植生保護柵も存在するので、対策の検討が必要。
- 竜宮のようにシカの侵入が確認されていても、植生回復効果を発揮している植生保護柵もある。

○ヨッピ川南岸

柵内 安定 ニッコウキスゲ

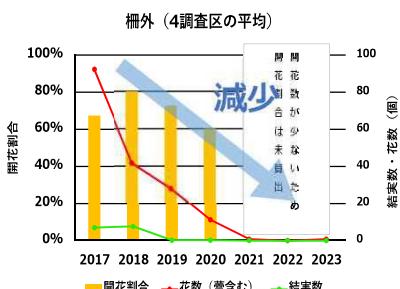


※2023年花・結実数は遅霜の影響で不作

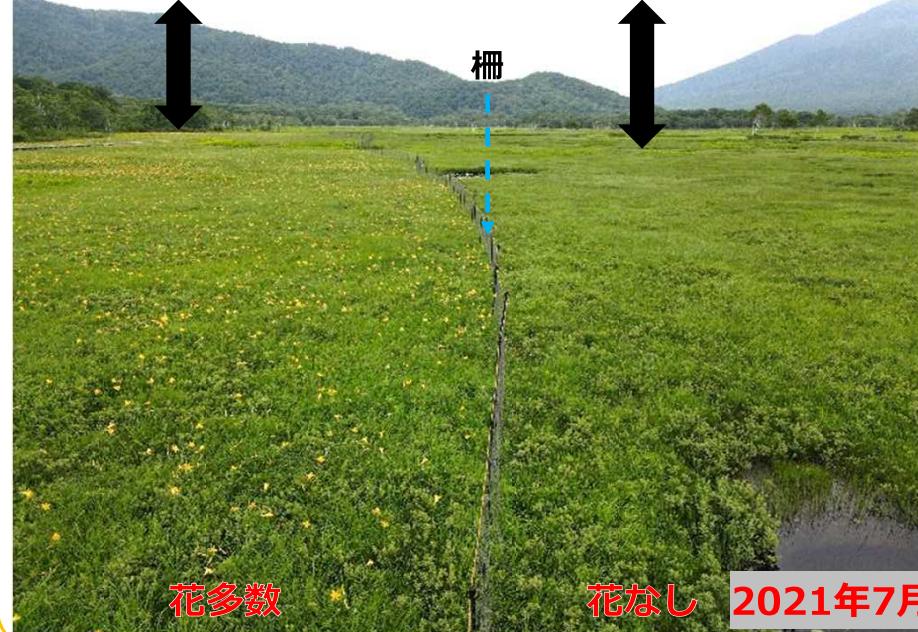
柵内はシカの影響がほとんどない

植生回復状況

柵外

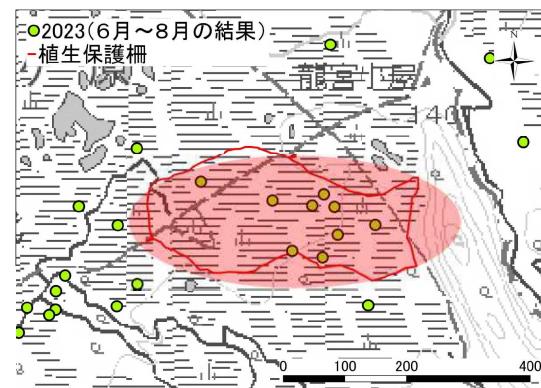
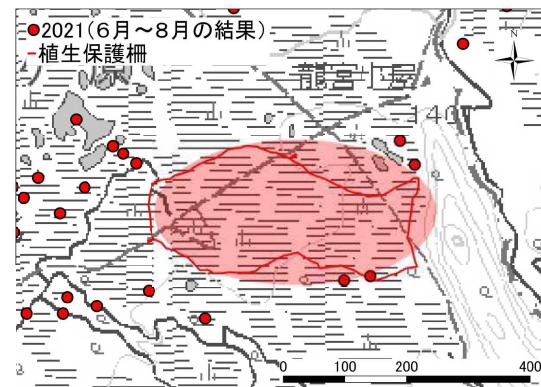


柵外はニッコウキスゲの開花は確認できない



○竜宮

シカ侵入状況

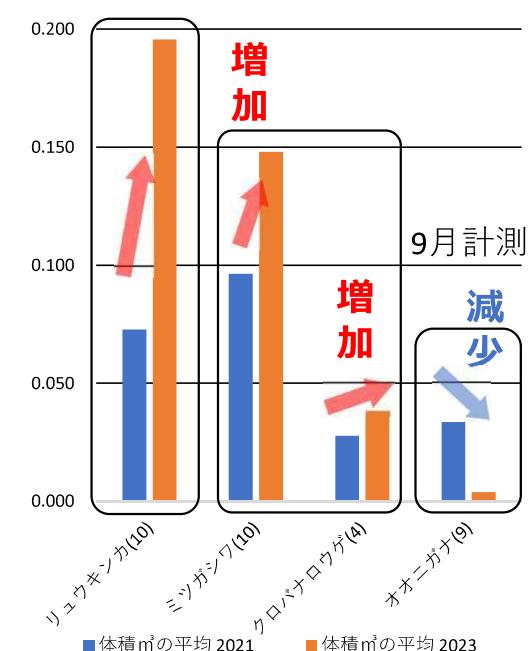


柵内のシカ確認地点が増加

植生回復状況

増
加

6月計測 7月計測



群落・個体サイズの推移

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針 の見直しについて

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針の改定について

- 2020年1月22日策定の対策方針について、5年を目途にモニタリング結果や対策の効果を総合的に検証し、見直しを行うこととしている。
- 2025年度から次期対策方針の運用開始を見据え、現行対策方針の見直しを実施中。
- 現行対策方針に基づく対策の成果について詳細レビューを実施し、その結果に基づき時期対策方針の事業目標等を検討予定。

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針
2020（令和2）年1月22日 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

対策方針改定スケジュール（2024年1月時点）	
2022（R4）	・対策方針（5ヵ年事業目標）の見直し準備
2023（R5） 上半年	次期対策方針の目的・最終目標作成 目的・最終目標・今後の検討ポイントの確認
2023（R5） 下半期	現行対策方針の進捗中間評価（詳細レビューの実施） 今後の進め方について
2024（R6） 上半年	骨子（案）の検討
2024（R6） 下半期	次期対策方針の策定
2025（R7） 上半年	次期対策方針の運用開始

https://www.env.go.jp/park/oze/files/1_onsenka19_houshin_b.pdf